

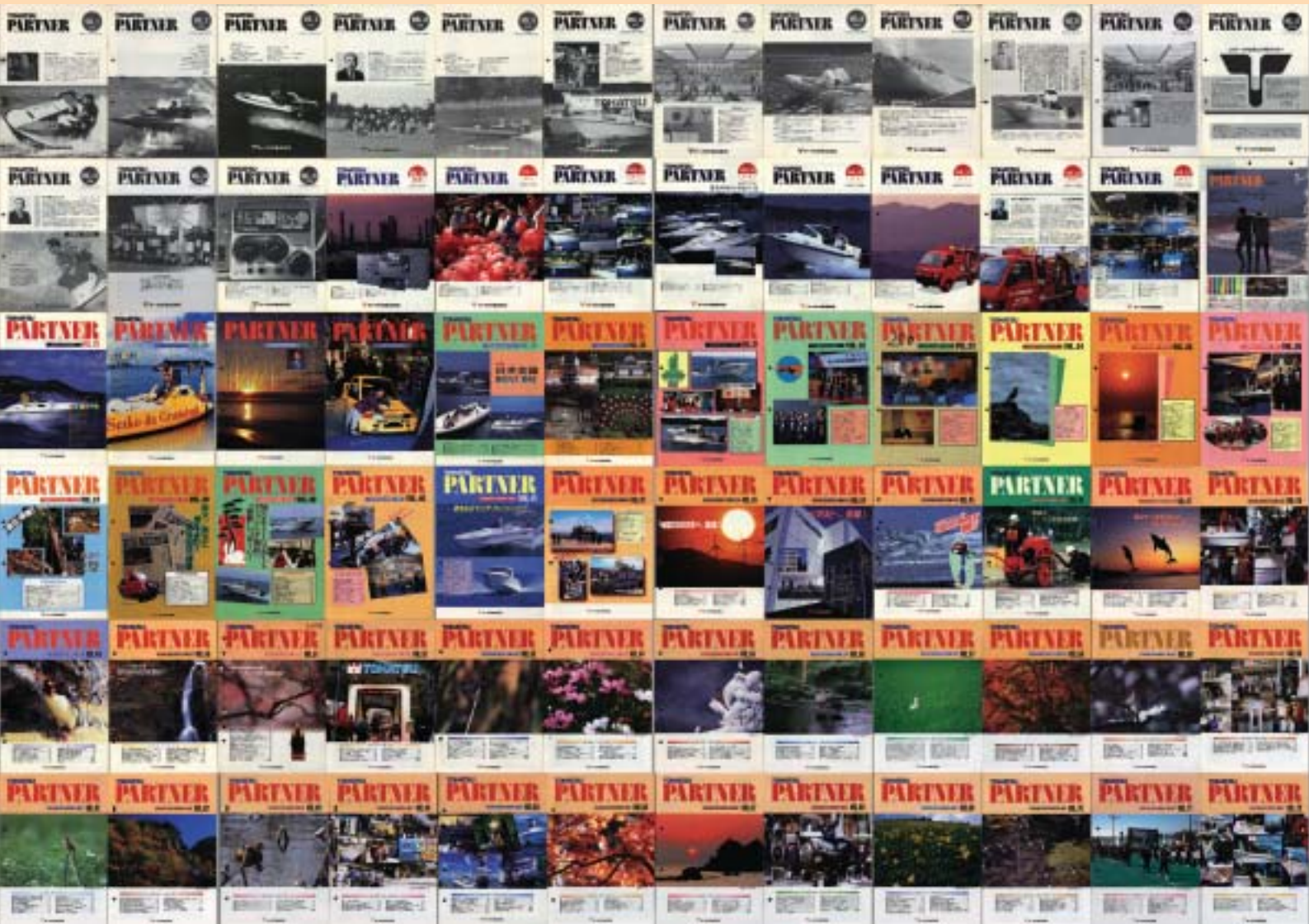
# TOHATSU

永久保存版

# PARTNER

2007年10月1日発行 / 75周年記念号

# VOL.73



トーハツ株式会社の歴史とともに歩んできた「PARTNER」vol.1～72

## C O N T E N T S

トーハツ設立75周年 社史刊行..... P.2～3  
 本社内に営業事務センターを開設..... P.3  
 利尻島で船外機の巡回サービスを実施..... P.4～5  
 今野鉄工所がマリン合同展示即売会..... P.4～5  
 戸田競艇場で少年少女サマーフェスティバル..... P.4～5  
 長野県阿智村へ積載車納入..... P.4～5  
 市原市へ積載車など5台納入..... P.4～5  
 兵庫県でVF53ASポンプ初お披露目..... P.4～5

VF53AS搭載の清掃車が初お目見え..... P.6  
 トビー工業へVF53ASポンプなど納入..... P.6  
 第36回全国消防技術大会 開く..... P.6  
 北海道ブロックでVF53ASの技術講習会..... P.7  
 中央ブロックでポンプの技術講習会..... P.7  
 がんばれ!新入社員..... P.7  
 VF63ASポンプ新発売(新製品紹介)..... 裏表紙



# 設立75周年「社史」を刊行

～ 苦境からの復興と発展への日々を刻む～

当社は今年、設立75周年を迎えます。大正、昭和、平成の3代にわたる時代を生きぬき、それぞれの場面に於いて尽力された先輩諸氏、並びに会社を支えてくれた関係各位に改めて感謝の意を表し

ます。75周年の歩みを将来に残すと共に、新たなスタートの原点と位置づけ、今後の飛躍のエネルギーとするために「社史」の刊行を計画いたしました。その要約を以下にご紹介いたします。

## 第1章 エンジンの生産を夢見て“ベンチャー企業”としてスタート

1922年(大正11年)4月、当社の前身であるタカタモーター研究所が現在の銀座8丁目に設立されました。エンジン、揚水ポンプの研究・製作を主な事業としました。

昭和に入ると、軍需産業の性格を濃くしていきます。陸軍の無線通信用発電機を大量納入。満州事変でも、2サイクルエンジンが軍用機材として高く評価され、発動発電機、動力伐採機などの発注が増加しました。

1932年(昭和7年)10月20日、それまでの個人会社から資本金50万円の「タカタモーター製作株式会社」となり、1939年(昭和14年)5月に「東京発動機株式会社」と社名を変更。翌1940年には陸海軍の協力管理工場となり、当時唯一の小型ガソリンエンジンの軍需工場として、開発・生産に拍車がかかりました。

戦争の拡大と東京空襲が予想された1943年(昭和18年)には、長野県岡谷市に新工場を建設することを決定。翌年暮れから一部操業を開始しました。



タカタモーター企業社の製品、陸軍納入の電動発電機(S.5年)



国産初の国検C-2級可搬消防ポンプ1号 VC-50形(3.5馬力220ℓ)(S.24年)

## 第2章 成長期 戦後日本の復興を支えた優良企業

終戦後、志村工場は1946年(昭和21年)1月には生産を再開しました。国内向け軌道用モーターカー、漁船用の石油発動機、可搬消防ポンプなどを開発し、民生用のエンジン部門を強化する方向に進みました。1947年(昭和22年)には岡谷工場も再開。そして同年、本社を中央区京橋2丁目に移転し、1950年(昭和25年)1月には東京証券取引所へ株式の上場を果たしました。

戦後の注目すべき製品開発の一つは可搬消防ポンプで、「VEシリーズ」、「VFシリーズ」として1970年代まで生産されました。またもう一つはTFL型バイク用エンジンで、1950年(昭和25年)頃から登場した「トーハツ号」を生み出しました。

1952年(昭和27年)には2回の増資を行い、岡谷、志村両工場の設備改善を実施。1956年(昭和31年)には、2輪車、消防ポンプともにトップメーカーとなり、また同年には船外機「OB型(1.5馬力)」を生産。販売を開始しました。



消防ポンプのベストセラー VMS形(25馬力)(S.35年発売)



磨き抜かれた新鋭機 V38AS



志村第二工場(坂下)とバイクテスト場(S.31年)



東京工場のオートバイ組立(S.32～35年)

## 第3章 雌伏期 会社更生法適用へ

1960年(昭和35年)9月期、当社は赤字決算となり無配に転落しました。これは主力であった自動2輪車部門で、競争激化と販売力の弱体さなどが利益率を悪化させた主因でありました。

しかしながらこれまでの間、農耕用エンジンは小型軽量で人気を集め、日本農業の機械化を支えました。また、船外機も漁業用に圧倒的なシェアを維持しておりました。しかし2輪車の不振が響き、苦難の時代へ突入していきました。



東京工場全景(S.53年)

## 第4章 発展期 再び技術の会社として進む

1968年(昭和43年)、更正計画の一環として本社を中央区京橋から東京工場のある板橋区小豆沢に移転しました。この時期は船外機の競争が激化する中、米国・ラップ社向け雪上車(スノーモービル)エンジンの大量受注に成功。1969年(昭和44年)春のことであり、更生会社からの脱却に大いに貢献しました。また、輸送用冷蔵装置「コールドジェット」など新製品分野も積極的に開拓し始めました。これらの積極姿勢が功を奏し、1971年(昭和46年)12月、会社更生法の終結となりました。

翌1972年(昭和47年)6月、当社は社名をトーハツ株式会社(TOYOTSU CORPORATION)に改



50ccの名車と評判になった「ランペット」

め、第2の創業に向け歩みだしたのです。

可搬消防ポンプ(V15A / 12馬力 / 重量30kg)、輸送用冷凍装置(ニューコールドジェット CJ1000)などの新製品を開発した1978年(昭和53年)11月には、東京工場の全面的な改造を終了しました。そして1984年(昭和59年)5月以降、船外機、消防ポンプの2大事業の他に不動産賃貸事業にも力を注ぎました。



## 第5章 飛躍期 環境対策へ技術力を傾注

1985年(昭和60年)には、日産自動車へ船外機のOEM供給を開始しました。その直後の1988年(昭和63年)2月、当社はアメリカのブランズウィック社との合弁で「トーハツマリン」を設立。また消防自動車では、マイコン制御の小型全自動消防車を開発し、更に総合的な騒音低減化を図った可搬消防ポンプを開発する一方で、1992年(平成4年)には、化学火災にも素早く対応できる軽化学消防自動車も開発。消防ポンプ機器のトップ企業として地域防災に貢献しました。なお現在の当社ビルが竣工したのは、2000年(平成12年)4月のことでした。



地球温暖化に伴う環境問題から、排ガス規制対策は船外機の分野でも重視されるようになりました。当社ではいち早く4ストローク船外機を開発すると共に、2ストロークのメリットを生かしつつ、燃費とパワーを両立したクリーンエンジンTLDI(筒内直接燃料噴射方式)を採用した船外機を発表。環境問題を大きく前進させた他、2002年(平成14年)には、マリン事業の輸出拡大を期してTAC(TOYOTA AMERICA CORPORATION)を設立。業務を開始しました。



飛躍期と位置づけられる21世紀にあって、とりわけ2005年(平成17年)1月のトーハツマリン駒ヶ根工場の竣工は、その象徴とも言うべき事業で、世界へ向けて21世紀の生産拠点となります。翌2006年(平成18年)には、日本初のB-3級小型消防ポンプに電子制御燃料噴射装置を採用した4ストロークエンジン搭載の「VF53AS」を開発し、その蓄積された技術力をアピールしました。



V75GSX: 国内で最高出力を誇る可搬消防ポンプ

## 第6章 スピード・チャレンジ・ヒューマン 未来に向かって

トーハツの象徴「ウイングマーク」には、企業理念を凝縮した様々な願いが込められています。その一つが「地域社会へ貢献する製品作り」であり、究極的には製品を通して世界人類の幸福と発展に寄与しようとするものです。そのためには、「常に感性を磨き、創造性を無限の空間にまで高めよう」という強い意思を表現しています。当社金子社長の掲げる「スピード、チャレンジ、ヒューマン」のキーワードは、その行動への意思を具現化したものです。

当社は、いま設立75周年。生産拠点の集約化をはかり、未来を直視し、国際競争力に耐える企業体質の強化を図ると共に、地域社会に貢献する優れた製品造りに邁進します。今後とも宜しくお願い申し上げます。



FRP軽積載消防車: 後部艦装をFRPにて形成し消防艦装を施したモデル



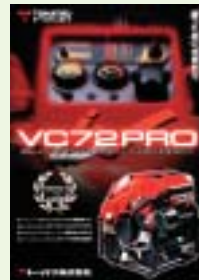
VC72PRO: 小型消防ポンプでは初のツイン真空ポンプを装備



時代が求めた船外機 クリーン&低燃費



水槽付全自動ポンプ積載車: VC72AM-Rにてハイスペックな全自動積載車



消防操法大会を意識した VC PROのカタログ



環境に優しい14ストロークエンジン搭載のVC53AS

## トーハツが「営業事務センター」を開設

トーハツでは、「全社最適システム」の導入に伴いこの4月から本社内に営業事務センターを新規に開設。国内外で処理される各種事務作業を、同センターで統括する形で業務の円滑化を図ろうと言うものです。

スタッフは、今までの各営業部や工場で様々な経験を積んだ経理担当者が抜擢され、主に納品書、請求書の発送、入金処理、売掛金管理などを行います。

同センターは新部署のため、まだまだエリアの方々へ頼っている状態で、業務プロセスが確立されておられません。例えば請求書の問い合わせなどで、販売店の皆様には一部ご迷惑をおかけするかもしれませんが、一日も早く業務を確立させ、皆様のニーズに応えられますよう営業事務センター一同、決意も新たに頑張る所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

(営業事務センター / 松藤)





# 船外機巡回サービスを実施

## 激励のため金子社長が現地入り



利尻固有種  
リシリヒナゲシ

利尻島は周囲60km余の大きな火山島で、とりわけ利尻コンブ、ウニ、アワビなどの海産物は日本屈指の漁獲量を誇る文字通り漁業依存の島です。

例年この北海道利尻島で行われているトーハツ船外機の巡回サービスが、今年も6月14日から29日までの16日間、同島全地域を対象に実施されました。実施にあたりトーハツでは、マリン営業部、技術部、TMC、サービス課など各部署のスペシャリスト4名体制のプロジェクトを結成。期間中に同島を一周し、全てのトーハツ船外機の点検サービスを行いました。その数は約500台以上に上り大変な労力と根気を必要とする作業です。

さて、この長期巡回サービス・プロジェクトを金子社長自らが激励しようと、去る6月14日の初日に現地入りして3日間にわたり滞在。その間、サービス・プロジェクトの激励はもとより、現地をくまなく視察。そして様々なユーザーとトーハツ船外機について親しく歓談するなど、拡販にも尽力。サービスマンを感激させました。

この度の利尻島「船外機巡回サービス」の実施により、期間中、電動船外機などを含め約50台余のご成約を頂くと共に、同点検作業も無事終了することができました。

同島の漁港関係者、及び漁師の皆様には厚くお礼申し上げます。また期間中ご協力頂いた(有)クサマ船具機工、仙法志漁業協同組合、小杉ボデー商会、(有)小坂商店、三浦商会本店の各位には心より感謝申し上げます。サービス・プロジェクトの皆さん大変お疲れ様でした。

(マリン北海道 / 山中)



金子社長自ら  
激励訪問に



金子社長とユーザー  
さんと販売交渉中。



ウニ漁光景。足で櫂  
を揺りポイントの  
微調整を行う。



利尻昆布を食べて  
育った最高級の蝦夷  
パフウニ

## 宮城県南三陸町志津川で

爽やかな晴天に恵まれた去る6月1日、宮城県南三陸町の今野鉄工所で3日間にわたり船外機主体の合同展示即売会が催されました。参加した主なメーカーは、トーハツをはじめ、ホンダ、三菱など。各社とも漁業向け主力モデルを前面に、3日間しのぎを削りました。

トーハツでは、人気モデルの直噴船外機MD50BEFTOLを出頭に4台(MFS25BEFL、MFS18BEFL、MFS9.8A3EFL)を展示。早朝出漁し、帰りに展示会場へ寄るユーザーも多く見られ終日大盛況でした。この期間中にTLDI直噴船外機など計4台のご成約を頂いた他、HOTな商談中も数台あって後日に期待をつなぎました。またマリン用品も、かなり売り上げを伸ばしました。

この地域では販売店のご努力により、このところトーハツのシェアも確実にアップ。ユーザーから直接大変な評価を頂いたり、またいろいろのご意見を聞く機会も増えました。今後大いに参考にしたいと思います。展示即売会を主催された今野鉄工所様には厚くお礼申し上げます。

(マリン東北 / 木村)

## 長野県阿智村へ 積載車納入

阿智村では、小型消防ポンプ全てトーハツ製を採用して頂いて

おり、全自動積載車も4台ほどが活躍しています。今回、町村合併に伴う車両配備の見直し、老朽化したポンプ車の更新が必要になるなど、今後の消防力維持・強化も踏まえた車両を検討していくこととなりました。

従来の全自動積載車を使用している中で、ポンプ車同様に外部操作ができることや、ポンプ単独での使用もできることなど高い利便性は認めるものの、従来型ポンプの積み下ろしが不便であること、ホース等の積載量が少ないこと、また大型の投光器の積載を可能にしたいとの要望がありました。そこでトーハツキャンペーン車両(水槽付積載車)をご覧頂き、ポンプの積載方法、付属品収納スペースの確



保、メタルハライド投光器の採用を検討し、限られたスペースの中で可能な限り収納、あるいは使いやすさを求めた設計を行って頂きました。

当初、ポンプ車の更新も検討されていましたが、現在の小型動力ポンプの性能やポンプ車にはない自動中継機能を有することが可能であるなど、山間部での中継送水や、水利直近までポンプを運べる利点などを考慮し、全自動積載車への変更及び自動中継機能付ポンプの採用を頂きました。また車両配備の見直し、台車付小型動力ポンプの積載車への変更等もあり、併せて4台の軽4WD積載車への更新、新規採用を行いました。

合計車両7台、ポンプ2台の更新が、このたび無事納入となりましたので、誌面をお借りしてご報告させていただきます。ありがとうございました。

(株)久保田商会 / 井坪



## 千葉県市原市へ積載車など5台を納入



## 今野鉄工所が漁業向け合同展示即売会



## 埼玉県戸田競艇場で 第25回

## 少年少女サマーフェスティバル

子供たちが夏休みに入ったばかりの去る8月1日、快晴に恵まれた埼玉県戸田競艇場で第25回少年少女サマーフェスティバルが開催されました。

昨年は折からの台風接近で中止となったため、今年はその分まで取り返そうと集まった子供たちは大はしゃぎ。模型モーターボート競技に興じたり、科学体験コーナーや親子カヌー教室、トーハツが応援するゴムボート試乗会などを親子で体験。熱中症や水の事故もなく、夏休みにふさわしい一日を終日楽しんでいました。

同サマーフェスティバルにご尽力頂いた少年少女スポーツ実行委員会、及びスタッフの方々、うだるような猛暑のなか大変ご苦勞様でした。

(マリン課/三好)



大型台風の接近で全国的に警戒態勢が敷かれるなか、去る7月15日、千葉県下トーハツ販売店の一つ(株)吉田商会を通じ、市原市の防災センターへ消防団向けにポンプ・積載車5台が納入されました。

この度の納入は、同市が従来使用している積載車及び可搬消防ポンプの更新に伴うもので、同市と吉田商会が綿密な打ち合わせを重ねた結果、ポンプはVF53AS、積載車にはTWL型リフターを装備しました。また仕様決定に至るまでには、数回にわたる実演を実施。同市消防関係者の高評価を得て採用されたものです。

一方、同市防災センターに於ける交付式には、大勢の消防団員が見守るなかで試運転を実施。エンジン音の静粛性や安定性抜群の始動性能などが話題となり、更には「電子制御燃料噴射装置付エンジン」へと関心が移っていききました。

VF53ASをご採用頂いた市原市、また販売にご尽力頂いた(株)吉田商会様には厚くお礼申し上げます。

(防災 中央 / 志津川)



## 兵庫県で 「VF53ASポンプ」 初お披露目

姫路市の中島自主防災会では、このほどVF53ASポンプの採用が決まり、去る3月18日、同市の関係者や自主防災会、消防団員などが多数見守るなか、ポンプ納入に伴う入魂式、これに次いで放水テストなどが行われました。

テストでは、軽四駆積載車に固定配管を施したVF53ASが登場。早速エンジン始動してテストが開始されると、その始動性能やエンジン音の静粛性、排煙の少なさなど噂通りの高性能ぶりに、見守っていた関係者や消防団員の間から驚きの声が聞かれ、先ずは大成功のお披露目でした。なお、この度トーハツポンプVF53ASをご採用頂いた中島自主防災会の皆様、また販売にご尽力頂いた(株)藤井ポンプ製作所様には、改めて厚くお礼申し上げます。

(防災関西 / 山口)





## VF53AS搭載の清掃車が 初のお目見え 大好評!

北海道道南の今金町にある北部松山環境衛生有限会社が所有する路面清掃車に、この程トーハツの環境に優しい4ストローク可搬消防ポンプ「VF53AS」が採用され、その効率性のよさが受け、同社の作業員の間で、いま大評判です。

この清掃車は水槽も装備し、キャビン内の遠隔装置により操作を行い、各部にある放水ノズルから出る加圧した水圧で路面清掃する仕組みです。VF53ASの操作もキュビン内のリモートパネルによって、エンジン始動から、加圧、エンジン停止まで、自在に行える便利です。

このポンプが評判になっている理由が、もう一つあります。それは清掃中のエンジン音がとりわけ静粛で、しかも白煙を



出さず超低燃費。省エネ効果が同社の業績に徐々に浸透してゆくと考えます。

道南に位置するこの今金町は、トーハツの北海道担当者・長谷川氏の故郷の隣町で、納入時の取り扱い説明は特に念入りに行ったとか。先ずは熱心な売込みが功を奏したようです。

(防災営業部 / 青山)



愛知県豊橋市のトピー工業(株)豊橋製造所様へ、去る7月19日、VF53ASポンプを搭載したトーハツFRP軽積載車が、販売店のひらいわ商会を通じて納入されました。緊急指定を受けた積載車の民間企業への納入は、当地豊橋ではトピー工業(株)様が第一号。納入日には、同社ご担当者の皆さん首を長くしてお待ち兼ねの様子でした。

納入された同積載車の艤装の出来映え、そしてVF53ASの

## 豊橋市のトピー工業へ FRP積載車及び VF53ASポンプを納入



静粛性、油圧リフターの操作性など、ご担当の皆さんは全ての点にご満足の様子でした。また車両やポンプの操作・取り扱いについても様々な質問が出されるなど、防災意識の高さに感服した次第です。

トピー工業(株)豊橋製造所様をはじめ、販売にご尽力頂いたひらいわ商会様には、厚くお礼申し上げます。

(防災豊橋 / 福田)



## 第36回 全国消防技術大会 開く

### 同会場で展示会も併催

東京では37 を記録する猛暑日が続く、去る8月22日、第36回全国消防技術大会が開かれ、水上・陸上合わせて約1万人の入場者を記録。猛暑のさなか様々なトップ技術が披露されました。

一方、同会場で併催された消防資機材展示会に出展したトーハツでは、4ストローク小型消防ポンプ「VF53AS」をはじめ、小型全自動消防車(シャッタータイプ)、救助用資機材、ライト、Tシャツ等々幅広く展示。また小物品の即売会も行われました。トーハツ展示ブースには、「VF53AS」の噂をきいて訪れる消防関係者が多く、常に人の輪ができる盛況ぶり。そのうえ様々なご意見やご感想を賜ることができました。一方、即売品コーナーでは、大会の合間を縫って訪れた大会参加者の方々が、「お土産品」がわりに小物品を次々と購入。文字通り飛びような売れ行きでした。

(防災企画・販促担当 / 友田)



# 北海道トーハツポンプ会で



く研修しました。とりわけカットエンジンで見る内部の新構造には興味津々。撮影する人、メモを取る人、また質問も続出。熱心な受講風景でした。



一方実体験では、実際にエンジンを始動させて、その始動性・超低騒音・無白煙など超高性能ぶりを披露。更に水槽を使用して自動吸水なども体験しました。また最後にはVF53ASの拡販PRの方法などについても学び大変有意義な講習会でした。最後には全員和やかに記念撮影。この体験が今後の拡販に大いに役立つことでしょう。ご苦労様でした。

(防災北海道)



## VF53ASの技術講習会

トーハツポンプ中央会では、同ブロックの代理店や販売店の営業・サービスマンを対象に、去る7月26日、トーハツ本社でポンプの技術講習会を実施しました。

この度の講習会は、座学コース・実技コースのいずれかを受講生自身が選択できる初めての試みで行われました。しかも今回の主モデルが昨年発売された電子制御燃料噴射装置付エンジンを搭載した人気機種「VF53AS」とあって、各地から大勢の受講生が参加し、両コースとも超満員。電装系統や分解・組立てなどに熱心に取り組んでいました。特に電装系の各部の作動チェック診断をパソコン操作で可能にしたことには、受講生全員が関心をしめし、改めて性能の高さに感動していました。猛暑のなか大変お疲れ様でした。

(防災中央 / 宮川)



## 中央ブロックで ポンプの技術講習会

## がんばれ！ 新入社員

日本経済の安定した回復基調に乗って、就職戦線は売り手市場に転じて久しい。このところ新卒、トラバユ共々に好調で、全体の雇用率もかなりの回復傾向にあるとか。

こうした環境のさ中であって、トーハツは今年度も優秀な人材を獲得することができました。おくれげながらこの春入社した二人の女性社員に、自己紹介を兼ねた力強いメッセージを頂きましたのでご紹介させていただきます。



〔営業事務センター所属 / 内藤 愛子さん〕

今年の4月から営業事務センターに配属されました内藤愛子と申します。

新しい部署であり、まだ何もわからない状態なので、皆様に色々ご迷惑をおかけしてしまうこともあると思いますが、自分なりに精一杯頑張っていきますのでどうぞ宜しくお願いいたします。



〔マリノ営業部海外課所属 / 小野澤 京子さん〕

今年入社しました営業部海外課の小野澤京子です。

今は輸出入の事について上司や先輩の方々に教えて頂き、少しずつですが学んでいます。ミスをしてご迷惑をおかけする事もありますが、これからも頑張りますので宜しくお願いいたします。



# 電子制御燃料噴射装置 4ストローク 小型消防ポンプ

世界初 小型消防ポンプにバッテリーを必要としない 電子制御燃料噴射装置を採用した4ストロークエンジンを搭載。  
“クリーン&エコノミー” そして “超低騒音” この性能が、これからの小型消防ポンプの基準です。

## 新設計 注目の装備

3気筒 4ストローク



小型ポンプとして、初のコンパクト高性能4ストローク3気筒エンジンを搭載。

**世界初**  
バッテリーレス  
電子制御燃料噴射装置

電子制御 燃料噴射装置



ECUからの命令を正確に燃料噴射し、完全燃焼を行いクリーンな排気ガスと低燃費を実現。

ECU



気象条件、及び運転状況を各種のセンサーで検知し最適な燃料噴射量・タイミング・点火時期を細かくコントロールするバッテリーレスタイプの電子制御燃料噴射装置を搭載。

## オプション品

全自動機能

新開発コンパクト遠隔操作盤により遠隔操作が可能です。

サーチライト

明るい12V・55Wハロゲン灯は、夜間の作業を協力的にバックアップ。

回転灯

離れていても、ポンプの運転状況を把握できます。

外部フューエルタンク

20リットルの燃料タンクを接続することによって長時間運転を実現。



新登場

VF63AS

B-2級

VF53AS

B-3級

排気ガスが“クリーン”

環境問題についての関心が高まる現在の必須条件です

一酸化炭素  
CO排出量

43% ↓ 低減

炭化水素・窒素酸化物  
HC・NOx排出量

90% ↓ 低減

排気ガスモーク

98% ↓ 低減

低騒音・低振動

消防活動・訓練時の情報伝達もスムーズ  
騒音

9dB ↓ 低減

燃料消費量が少ない

資源の有効利用し、長時間の運転が可能  
燃料消費量

48% ↓ 低減

※データ値は、0.4MPa 運転時の  
現行2ストロークモデルとの比較です。

## 発行

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢3-5-4

TEL(03)3966-3116 / FAX(03)3966-2951

トーハツ株式会社

トーハツパートナー編集局

編集兼発行責任者 若林 弘 / 小山 将